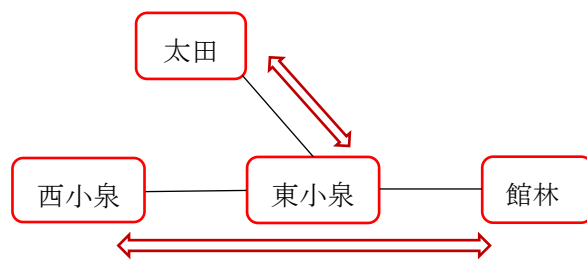


東武小泉線乗車記

56-A7 S・I

北関東の路線を乗りつぶすべく、東武小泉線に乗車した。あまり注目されにくい路線だが、路線ができた経緯や沿線の面白い場所を伝えていきたいと思う。

運航形態は、館林⇄西小泉 東小泉⇄太田の2系統から成り、現在直通する定期列車はなく東小泉で完全に系統が分断されている。



総路線距離：18.4 km

駅数：9 駅



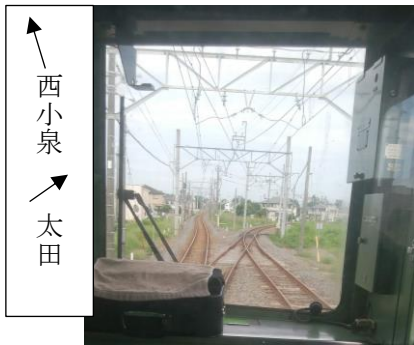
↑ 4 番線に停車中の 8 0 0 0 系

浅草 7:03 発の区間急行に乗り、8:32 に館林に到着。4 番線に向かう。小泉線の使用車両は 8000 系と 10000 系で、いずれも 2 両ワンマン編成。

8:50 信号開通メロディ「黄色いリボン」が流れ、定刻に館林を発車。小泉線は大きく左に曲がる。小泉線は、東武の他路線よりも比較的短く、この列車も終点まではわずか 18 分ほどで着く。



閑静な住宅地の中を単線で列車は走行し、館林から 2 駅先の本中野駅に到着。本中野駅は開業当初は別の位置にあったが、地主らの強い要求により現在の位置に駅が移転したという歴史を持つ。



さらに2駅、太田方面との分岐駅である東小泉駅に到着。この駅の面白い歴史事情はまた後ほど。

東小泉駅を出ると、太田方面は右にカーブして、乗車中の西小泉方面は直進していく。

わずか800メートルほどで小泉町駅に着いた。ここで降りようと思う。実はこの駅、東小泉駅と関わりがある。

小泉信号所（東小泉駅）



1941年に太田から小泉信号所（現東小泉駅）が開業した。信号所時代は乗換え専用の場所であり、ここで下車することはできなかった。翌年には駅に昇格し乗降が可能になった代わりに、近くにあった小泉町駅が廃止に追いやられることになる。しかし1955年に、東小泉駅は信号所に格下げとなり再び小泉町駅で旅客営業を再開した。1977年には西邑楽高校開校にあわせてまた東小泉駅が旅客営業を再開し現在の形に至る。

つまり、信号所から駅への昇格を2回果たした他に類を見ない経歴を持つ駅が東小泉駅である。



9:30 小泉町駅から約1kmで次の駅、西小泉駅まで歩いてきた。ここが小泉線の終点である。駅舎は2017年に新しくなり、黄色や緑を基調とするものになり、他の駅よりカラフルな印象を受ける。一体なぜか。



大泉町観光協会より

日本のブラジル 大泉町

西小泉駅のある群馬県大泉町は、製造業でさかえ多くの大手企業を誘致してきた。そんな中、日本人労働者の人手不足により多くの外国人労働者を招き大泉町に定住するようになった。

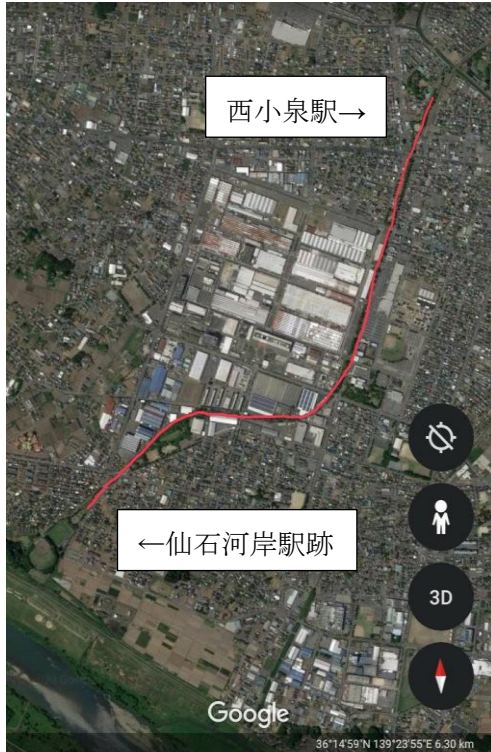
現在の大泉町に住む外国人の割合は18%にも及び、その中でもブラジル人の割合が最も高い。カラフルな駅舎はブラジルの国旗をイメージしたもので、案内表示が中国語やポルトガル語など6か国語の表示があるのも、駅を利用する外国人に配慮したものになっている。



西小泉駅付近では、ブラジル料理の店もいくつかあるので来られた際は本場の味を堪能してみてもはどうだろうか。

現在は1面2線の駅で車止めもあるが、かつてはさらにもうひとつホームがあって線路が伸びており、最終的には熊谷までの延伸計画があった。

小泉線は未成線



1939年に西小泉駅より先、利根川の手前の仙石河岸（せんごくがし）駅まで線路が開通した。最終的には利根川を渡って熊谷まで線路をつなげ、太田でつくられた軍事物資を素早く運ぶことを目的としてこの路線が建設された。

結局、熊谷まで開通しないまま終戦となり、戦後は砂利を運搬する貨物専用線として運行していたが1976年に廃線となった。

廃線跡は、いずみ緑道となっており仙石河岸駅の跡地である野球場まで整備されている。

時間があればゆっくり歩いてみてもいいかもしれない。



貨物の跡地であるいずみ緑道を眺めていると、折り返しの10000系の到着。この車両はワンマン化改造を受けて2020年6月下旬ごろ小泉線にやってきた。行先表示がフルカラーLEDになっていたり、車内にはLCD（液晶ディスプレイ）がついていたり、新車同様の設備を持っている。

9:59 定刻通り西小泉駅を発車。館林行きなので、東小泉駅で太田方面に乗り換える。



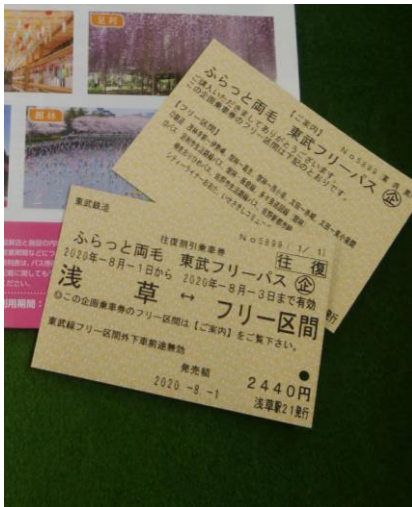
東小泉駅に到着。しばらく待つて、向かい側のホームに折り返しの8000系が到着した。この駅からの太田方面の列車はほとんどが桐生線と直通しており桐生線の終点、赤城まで運転している。この列車も赤城行きだ。



10:29 東小泉駅を離れ右に田園風景、左に住宅地といった場所を走行し、高架になると小泉線の終点、太田に到着。

10:38 これにて小泉線は全線乗りつぶし完了となる。

使用した切符



今回は「ふらっと両毛 東武フリーパス」を購入した。この切符は、東武沿線で発券した駅から伊勢崎線の茂林寺駅以北のフリー区間までの往復切符で、茂林寺駅以北の東武鉄道は乗り降り自由になる。

なんとこの切符、発売日から3日間利用可能で宿泊すればさらにお得に両毛地域を旅することができる。1日で北関東の東武鉄道を乗りつぶすだけでも十分元がとれるので、乗り鉄にもおすすめの切符だ。楽しみ方は人それぞれだろう。

小泉線に乗った感想

乗る前は田舎のローカル線なのかと思ったが、今も昔も沿線の工場や学校に通勤通学するための大事な路線だということがわかった。また、西小泉駅の意外な歴史や駅構内にあった草木に覆われた廃ホームから貨物列車が出ていた頃の情景を想像しながら旅ができて楽しい旅となった。

最後に

鉄道路線の乗りつぶしに行く際は、その路線の歴史やその路線が通る町の情報を少しでもいいので調べてから行くことを推奨する。そして途中下車をして町の雰囲気を感じたり、調べたところに行ったりすれば旅行が一段と楽しくなると思う。

画像引用；著者がとったもの、大泉町観光協会、GoogleEarth より

引用文献；

東武鉄道公式サイト

https://www.tobu.co.jp/railway/guide/line/koizumi_line.html

大泉町観光協会

<https://www.oizumimachi-kankoukyoukai.jp/>